

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウシヤ 学校法人 同志社								
フリガナ大学の名称	トウシヤジヤウダクダクダク 同志社女子大学大学院 (Graduate School of Doshisha Women's College)								
大学本部の位置	京都府京田辺市興戸南銚立九七番壺								
大学の目的	本大学院は、立学の精神に基づき学部の教育の基礎のうえに、学術の理論および応用を教授研究し、精深な学識と研究能力を養い、文化の進展に寄与する女性の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	本課程では、博士課程（前期）での教育・研究をさらに深化させ、看護学の研究者として自立した研究活動を行うのに必要な高度な研究力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを基本的な理念として、看護実践に活用可能な理論の構築や方法の開発を目指し、科学的な思考に基づいた高度な研究・教育・実践活動を推進することのできる女性を育成する。これらの人材を社会に輩出することで、看護学の発展と健康・福祉の向上に寄与することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称		入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 看護学部 看護学科 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 14条特例の実施
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing Science]	年	人	年次人	人		年月 第 年次	京都府京田辺市興戸南銚立九七番壺	
	看護学専攻 [Nursing Science]	3	3	—	9	博士 (看護学) 【Doctor of Nursing Science】	平成32年4月 第1年次		
	計		3	—	9				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	学芸学部 メディア創造学科〔定員増〕 (5) (平成32年4月) 国際教養学科〔定員増〕 (5) (平成32年4月) 現代社会学部 社会システム学科〔定員増〕 (10) (平成32年4月) 薬学部 医療薬学科〔定員増〕 (5) (平成32年4月) 看護学部 看護学科〔定員増〕 (10) (平成32年4月) 表象文化学部 英語英文学科〔定員増〕 (5) (平成32年4月) 生活科学部 人間生活学科〔定員増〕 (10) (平成32年4月) 食物栄養科学科 食物科学専攻〔定員増〕 (5) (平成32年4月) 平成32年4月名称変更予定 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 → 看護学専攻 博士課程（前期） 同志社大学理工学部 エネルギー機械工学科 → 機械理工学科								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学研究科 看護学専攻 博士課程（後期）	講義	演習	実験・実習	計	11単位			

学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設分	看護学研究科 看護学専攻 博士課程（後期）	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	2 (2)	
	計	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	- (-)	
既設分	文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（前期）	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	7 (7)	
	文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（後期）	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
	文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（前期）	15 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	4 (4)	
	文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（後期）	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
	文学研究科 情報文化専攻 修士課程	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	3 (3)	
	国際社会システム研究科 国際社会システム専攻 修士課程	18 (18)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	
	薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程	13 (13)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
	看護学研究科 看護学専攻 博士課程（前期）	8 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (16)	1 (1)	31 (31)	
	生活科学研究科 生活デザイン専攻 修士課程	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	
	生活科学研究科 食物栄養科学専攻 修士課程	14 (14)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	17 (17)	
	計	95 (96)	21 (21)	1 (1)	0 (0)	117 (118)	1 (1)	- (-)	
合計		95 (96)	21 (21)	1 (1)	0 (0)	117 (118)	1 (1)	- (-)	
職 種		専 任		兼 任		計			
事務職員		74 (74)		97 (97)		171 (171)			
技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
図書館専門職員		3 (3)		0 (0)		3 (3)			
その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計		77 (77)		97 (97)		174 (174)			
校地等		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
校舎敷地		138,229.62㎡	0㎡	0㎡	138,229.62㎡				
運動場用地		9,284.68㎡	0㎡	0㎡	9,284.68㎡				
小計		147,514.30㎡	0㎡	0㎡	147,514.30㎡				
その他		14,547.01㎡	0㎡	0㎡	14,547.01㎡				
合計		162,061.31㎡	0㎡	0㎡	162,061.31㎡				
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
		91,841.03㎡ (91,841.03㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	91,841.03㎡ (91,841.03㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	86室	77室	243室	19室 (補助職員 7人)	4室 (補助職員 2人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		看護学研究科 看護学専攻 博士課程（後期）		14 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	看護学研究科	234〔25〕 (96〔11〕)	—〔—〕 (—〔—〕)	—〔—〕 (—〔—〕)	8 (8)	25 (25)	5 (5)		
	計	234〔25〕 (96〔11〕)	—〔—〕 (—〔—〕)	—〔—〕 (—〔—〕)	8 (8)	25 (25)	5 (5)		
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数			
		10,301.95㎡		899		744,025			

平成31年9月名称変更届出（予定）

大学全体

貸与者：勸業年会
借用期間
2013年6月から30年間
4,115.19㎡

大学全体

申請研究科全体

大学全体

体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		6,277.64㎡		テニスコート6面			弓道場			
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科全体
		教員1人当り研究費等		410千円	410千円	410千円	－千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		11,650千円	13,900千円	15,700千円	－千円	－千円	－千円	
		図書購入費	0千円	1,000千円	0千円	0千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	－千円	－千円	－千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		780千円	600千円	600千円	－千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			運営費は、学生納付金に加え、手数料、資産運用収入、雑収入により充当する。							
大学の名称		同志社女子大学								備考
既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	・平成30年度より学科名称変更
		年	人	年次人	人		倍			
	学芸学部 音楽学科	4	115	—	460	学士 (音楽)	1.03 1.02	昭和 40年度	京都府京田辺市興戸 南針立97番1	
	音楽学科 演奏専攻	4	75	—	300	学士 (音楽)	1.00	昭和 40年度	同 上	
	音楽学科 音楽文化専攻	4	40	—	160	学士 (音楽)	1.05	昭和 40年度	同 上	
	メディア創造学科	4	120	—	480	学士 (メディア創造)	1.03	平成 14年度	同 上	
	国際教養学科	4	80	—	320	学士 (国際教養学)	1.06	平成 19年度	同 上	
	現代社会学部 社会システム学科	4	300	—	1,200	学士 (社会システム)	1.03 1.03	平成 12年度	同 上	
	現代こども学科	4	100	—	400	学士 (現代社会)	1.05	平成 16年度	同 上	
	薬学部 医療薬学科	4	—	—	—	学士 (薬学)	— —	平成 17年度	同 上	
	薬学部 医療薬学科	6	120	—	720	学士 (薬学)	1.05 1.05	平成 18年度	同 上	
	看護学部 看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.04 1.04	平成 27年度	同 上	
	表象文化学部 英語英文学科	4	145	—	580	学士 (文学)	1.07 1.07	平成 21年度	京都市上京区今出川 通烏丸東入玄武町 602番地1	
	日本語日本文学科	4	120	—	480	学士 (文学)	1.06	平成 21年度	同 上	
	生活科学部 人間生活学科	4	80	—	320	学士 (生活科学)	1.06 1.07	昭和 42年度	同 上	
	食物栄養科学科	4	135	—	540	学士 (生活科学)	1.06	昭和 44年度	同 上	
食物栄養科学科 食物科学専攻	4	55	—	220	学士 (生活科学)	1.05	昭和 44年度	同 上		
食物栄養科学科 管理栄養士専攻	4	80	—	320	学士 (生活科学)	1.07	昭和 44年度	同 上		

	大学の名称	同志社女子大学							備 考	
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定員超 過率	開設 年度		所 在 地
既 設 大 学 等 の 状 況	大学院									
	文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（前期）	2	8	—	16	修士 （英語英文学）	0.37	昭和 42年度	京都市上京区今出川 通烏丸東入玄武町 602番地1	
	文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（後期）	3	4	—	12	博士 （英語英文学）	0.16	昭和 50年度	同 上	
	文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（前期）	2	10	—	20	修士 （日本語日本文化）	0.45	平成 9年度	同 上	
	文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（後期）	3	4	—	12	博士 （日本語日本文化）	0.16	平成 12年度	同 上	
	文学研究科 情報文化専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 （情報文化）	0.20	平成 20年度	京都府京田辺市興戸 南鋒立97番1	
	国際社会システム研究科 国際社会システム専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 （国際社会システム）	0.10	平成 16年度	同 上	
	薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程	4	4	—	16	博士 （薬学）	0.31	平成 24年度	同 上	
	看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	6	—	12	修士 （看護学）	0.66	平成 30年度	同 上	
	生活科学研究科 生活デザイン専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 （生活デザイン）	0.20	平成 20年度	京都市上京区今出川 通烏丸東入玄武町 602番地1	
	生活科学研究科 食物栄養科学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士 （食物栄養科学）	0.43	昭和 43年度	同 上	

大学等の名称	同志社大学								所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
既設大学等の状況	神学部	年	人	年次	人		倍			
	神学科	4	63	—	246	学士(神学)	1.03	昭和23年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成30年度入学定員増 (3人)
	文学部						1.02			
	英文学科	4	315	—	1230	学士(英文学) 学士(国際教養)	1.01	昭和23年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成30年度入学定員増 (15人)
	哲学科	4	70	—	270	学士(哲学)	1.02	平成17年度	同 上	平成30年度入学定員増 (5人)
	美学芸術学科	4	70	—	270	学士(美学芸術学)	1.12	平成17年度	同 上	平成30年度入学定員増 (5人)
	文化史学科	4	125	—	490	学士(文化史学)	1.03	平成17年度	同 上	平成30年度入学定員増 (5人)
	国文学科	4	125	—	490	学士(国文学) 学士(国際教養)	1.02	平成17年度	同 上	平成30年度入学定員増 (5人)
	社会学部						1.01			
	社会学科	4	90	—	344	学士(社会学) 学士(国際教養)	1.03	平成17年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成30年度入学定員増 (8人)
	社会福祉学科	4	98	—	382	学士(社会福祉学)	0.97	平成17年度	同 上	平成30年度入学定員増 (5人)
	メディア学科	4	88	—	342	学士(メディア学)	1.02	平成17年度	同 上	平成30年度入学定員増 (5人)
	産業関係学科	4	87	—	338	学士(産業関係学)	1.01	平成17年度	同 上	平成30年度入学定員増 (5人)
	教育文化学科	4	79	—	308	学士(教育文化学) 学士(国際教養)	1.02	平成17年度	同 上	平成30年度入学定員増 (4人)
	法学部						1.03			
	法律学科	4	683	—	2666	学士(法学) 学士(国際教養)	1.02	昭和23年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成30年度入学定員増 (33人)
	政治学科	4	210	—	820	学士(政治学) 学士(国際教養)	1.05	昭和23年度	同 上	平成30年度入学定員増 (10人)
	経済学部						1.02			
	経済学科	4	893	—	3486	学士(経済学) 学士(国際教養)	1.02	昭和23年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成30年度入学定員増 (43人)
	商学部						1.00			
	商学科	4	893	—	3486	学士(商学) 学士(国際教養)	1.00	昭和24年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成30年度入学定員増 (43人)
	政策学部						1.03			
	政策学科	4	420	—	1640	学士(政策学) 学士(国際教養)	1.03	平成16年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成30年度入学定員増 (20人)
	文化情報学部						1.07			
	文化情報学科	4	294	—	1148	学士(文化情報学)	1.07	平成17年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3	平成30年度入学定員増 (14人)
	理工学部			3年次			1.01			
	インテリジェント情報工学科	4	83	2	328	学士(工学)	0.96	平成6年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3	平成30年度入学定員増 (4人)
	情報システムデザイン学科	4	83	2	328	学士(工学)	1.00	平成16年度	同 上	平成30年度入学定員増 (4人)
	電気工学科	4	80	2	312	学士(工学)	1.04	昭和24年度	同 上	平成30年度入学定員増 (6人)
	電子工学科	4	86	2	344	学士(工学)	1.01	昭和38年度	同 上	平成30年度入学定員増 (2人)
機械システム工学科	4	96	2	374	学士(工学)	1.10	昭和24年度	同 上	平成30年度入学定員増 (7人)	
エネルギー機械工学科	4	70	2	282	学士(工学)	1.03	昭和38年度	同 上	平成30年度入学定員増 (1人)	
機能分子・生命化学科	4	83	2	328	学士(工学)	0.97	平成6年度	同 上	平成30年度入学定員増 (4人)	
化学システム創成工学科	4	83	2	328	学士(理学) 学士(工学)	0.99	平成6年度	同 上	平成30年度入学定員増 (4人)	
環境システム学科	4	51	2	204	学士(工学) 学士(理学)	0.98	平成16年度	同 上	平成30年度入学定員増 (2人)	

学 部 等 の 名 称	修業	入学	編入学	収容	学位又	定 員	開設	所 在 地		
	年限	定員	定員	定員	は称号	超過率	年度			
	年	人	年次 3年次	人		倍				
数理システム学科	4	41	2	164	学士（理学）	1.00	平成20年度	京都府京田辺市多々羅都谷1番地3		平成30年度入学定員増(2人)
生命医科学部						1.08				
医工学科	4	100	—	380	学士（工学）	1.09	平成20年度	京都府京田辺市多々羅都谷1番地3		平成30年度入学定員増(10人)
医情報学科	4	100	—	380	学士（工学）	1.08	平成20年度	同 上		平成30年度入学定員増(10人)
医生命システム学科	4	65	—	250	学士（理学）	1.08	平成20年度	同 上		平成30年度入学定員増(5人)
スポーツ健康科学部						1.05				
スポーツ健康科学科	4	221	—	862	学士（スポーツ健康科学）	1.05	平成20年度	京都府京田辺市多々羅都谷1番地3		平成30年度入学定員増(11人)
心理学部						1.06				
心理学科	4	158	—	616	学士（心理学）	1.06	平成21年度	京都府京田辺市多々羅都谷1番地3		平成30年度入学定員増(8人)
グローバル・コミュニケーション学部						1.01				
グローバル・コミュニケーション学科	4	158	—	616	学士（グローバル・コミュニケーション学）	1.01	平成23年度	京都府京田辺市多々羅都谷1番地3		平成30年度入学定員増(8人)
グローバル地域文化学部						1.08				
グローバル地域文化学科	4	190	—	740	学士（グローバル地域文化学）	1.08	平成25年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地		平成30年度入学定員増(10人)
大学院										
博士前期課程及び修士課程										
神学研究科										
神学専攻	2	20	—	40	修士（神学） 修士（一神教研究）	0.67	平成19年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地		
文学研究科										
哲学専攻	2	10	—	20	修士（哲学）	0.20	昭和25年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地		
英文学・英語学専攻	2	20	—	40	修士（英文学） 修士（英語学）	0.22	昭和25年度	同 上		
文化史学専攻	2	15	—	30	修士（文化史学）	0.43	昭和26年度	同 上		
国文学専攻	2	10	—	20	修士（国文学）	0.40	昭和37年度	同 上		
美学芸術学専攻	2	5	—	10	修士（美学） 修士（芸術学）	0.10	昭和63年度	同 上		
社会学研究科										
社会福祉学専攻	2	10	—	20	修士（社会福祉学）	0.55	平成17年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地		
メディア学専攻	2	5	—	10	修士（メディア学）	1.30	平成17年度	同 上		
教育文化学専攻	2	7	—	14	修士（教育文化学）	0.35	平成17年度	同 上		
社会学専攻	2	10	—	20	修士（社会学）	0.30	平成17年度	同 上		
産業関係学専攻	2	5	—	10	修士（産業関係学）	0.60	平成17年度	同 上		
法学研究科										
政治学専攻	2	40	—	80	修士（政治学） 修士（アジア太平洋研究・政治学） 修士（比較政治学）	0.22	昭和25年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地		
私法学専攻	2	45	—	90	修士（法学） 修士（比較法学）	0.54	昭和26年度	同 上		
公法学専攻	2	45	—	90	修士（法学） 修士（比較法学）	0.38	昭和38年度	同 上		
経済学研究科										
理論経済学専攻	2	25	—	50	修士（経済学）	0.42	昭和25年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地		
応用経済学専攻	2	25	—	50	修士（経済学）	0.82	昭和25年度	同 上		
商学研究科										
商学専攻	2	65	—	130	修士（商学）	0.10	昭和25年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地		

既設大学等の状況

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次	人		倍		
	総合政策科学研究科 総合政策科学専攻	2	70	—	140	修士（政策科学） 修士（グローバル・イノベーション）	0.43	平成7年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
	文化情報科学研究科 文化情報学専攻	2	30	—	60	修士（文化情報学）	0.48	平成19年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3
	理工学研究科								
	情報工学専攻	2	60	—	120	修士（工学）	0.94	平成10年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3
	電気電子工学専攻	2	70	—	140	修士（工学）	1.30	昭和30年度	同 上
	機械工学専攻	2	80	—	160	修士（工学）	1.43	昭和30年度	同 上
	応用化学専攻	2	80	—	160	修士（工学） 修士（理学）	1.01	昭和30年度	同 上
	数理環境科学専攻	2	25	—	50	修士（工学） 修士（理学）	0.54	平成10年度	同 上
	生命医科学研究科								
	医工学・医情報学専攻	2	90	—	180	修士（工学）	0.95	平成24年度	同 上
	医生命システム専攻	2	20	—	40	修士（理学）	1.27	平成24年度	同 上
	スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻	2	8	—	16	修士（スポーツ健康科学）	1.31	平成22年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3
	心理学研究科 心理学専攻	2	10	—	20	修士（心理学）	0.75	平成21年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3
	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻	2	45	—	90	修士（外国語研究） 修士（現代研究） 修士（グローバル社会研究）	0.67	平成22年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
	ビジネス研究科 グローバル経営研究専攻	2	45	—	90	修士（経営学）	0.30	平成26年度	同 上
	博士後期課程								
	神学研究科 神学専攻	3	5	—	15	博士（神学） 博士（一神教研究）	0.93	昭和28年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
	文学研究科 哲学専攻	3	5	—	15	博士（哲学）	0.06	昭和28年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
	英文学・英語学専攻	3	4	—	12	博士（英文学） 博士（英語学）	0.33	昭和30年度	同 上
	文化史学専攻	3	4	—	12	博士（文化史学）	0.50	昭和30年度	同 上
	国文学専攻	3	3	—	9	博士（国文学）	0.66	昭和61年度	同 上
	美学芸術学専攻	3	3	—	9	博士（芸術学）	0.44	平成8年度	同 上
	社会学研究科								
	社会福祉学専攻	3	6	—	18	博士（社会福祉学）	0.88	平成17年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
	メディア学専攻	3	2	—	6	博士（メディア学）	0.00	平成17年度	同 上
	教育文化学専攻	3	3	—	9	博士（教育文化学）	0.00	平成17年度	同 上
	社会学専攻	3	5	—	15	博士（社会学）	0.20	平成17年度	同 上
	産業関係学専攻	3	2	—	6	博士（産業関係学）	0.16	平成17年度	同 上

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
		年	人	年次	人		倍				
	法学研究科										
	政治学専攻	3	5	—	15	博士（政治学）	0.40	昭和28年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地		
	私法学専攻	3	5	—	15	博士（法学）	0.20	昭和38年度	同 上		
	公法学専攻	3	5	—	15	博士（法学）	0.40	昭和51年度	同 上		
	経済学研究科										
	経済政策専攻	3	5	—	15	博士（経済学）	0.66	昭和32年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地		
	商学研究科										
	商学専攻	3	5	—	15	博士（商学）	0.40	昭和40年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地		
	総合政策科学研究科										
	総合政策科学専攻	3	15	—	45	博士（政策科学） 博士（マニヤル・イノベション）	0.64	平成9年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地		
	文化情報学研究科										
	文化情報学専攻	3	5	—	15	博士（文化情報学）	0.53	平成19年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3		
	理工学研究科										
	情報工学専攻	3	5	—	15	博士（工学）	0.60	平成12年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3		
	電気電子工学専攻	3	7	—	21	博士（工学）	0.71	昭和32年度	同 上		
	機械工学専攻	3	8	—	24	博士（工学）	0.62	昭和32年度	同 上		
	応用化学専攻	3	7	—	21	博士（工学） 博士（理学）	0.42	昭和34年度	同 上		
	数理環境科学専攻	3	3	—	9	博士（工学） 博士（理学）	0.33	平成21年度	同 上		
	生命医科学研究科										
	医工学・医情報学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	1.50	平成24年度	同 上		
	医生命システム専攻	3	12	—	36	博士（理学）	0.33	平成24年度	同 上		
	スポーツ健康科学研究科										
	スポーツ健康科学専攻	3	3	—	9	博士（スポーツ健康科学）	0.44	平成24年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3		
	心理学研究科										
	心理学専攻	3	6	—	16	博士（心理学）	0.58	平成21年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3	平成30年度入学定員増(2人)	
	グローバル・スタディーズ研究科										
	グローバル・スタディーズ専攻	3	18	—	54	博士（アリア研究） 博士（現代アリア研究） 博士（グローバル社会研究）	0.77	平成22年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地		

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次	人		倍			
	一貫制博士課程 総合政策科学研究科 技術・革新的経営専攻	5	—	—	—	修士（技術・革新的経営） 博士（技術・革新的経営）	—	平成21年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成29年4月より学生募集停止
	脳科学研究科 発達加齢脳専攻	5	10	—	50	博士（理学）	0.56	平成24年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3	
	専門職学位課程 司法研究科 法務専攻	3	70	—	210	法務博士（専門職）	0.65	平成16年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	
	ビジネス研究科 ビジネス専攻	2	30	—	60	ビジネス修士（専門職）	0.98	平成16年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	
附属施設の概要	<p>名称：薬用植物園（同志社女子大学薬学部・薬学研究科専用） 目的：薬用植物の栽培と品質に関する研究ならびに薬用植物の自生状況の研究 所在地：京都府京田辺市興戸地蔵谷57 設置年月：平成17年4月 面積：1,007㎡</p>									

学校法人同志社 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学定員	編入学 定員	收容定員	平成32年度	入学定員	編入学 定員	收容定員	変更の事由
同志社女子大学				同志社女子大学				
学芸学部				学芸学部				
音楽学科				音楽学科				
演奏専攻	75	—	300	演奏専攻	75	—	300	
音楽文化専攻	40	—	160	音楽文化専攻	40	—	160	
メディア創造学科	120	—	480	メディア創造学科	<u>125</u>	—	<u>500</u>	定員変更(5)
国際教養学科	80	—	320	国際教養学科	<u>85</u>	—	<u>340</u>	定員変更(5)
現代社会学部				現代社会学部				
社会システム学科	300	—	1,200	社会システム学科	<u>310</u>	—	<u>1,240</u>	定員変更(10)
現代こども学科	100	—	400	現代こども学科	100	—	400	
薬学部				薬学部				
医療薬学科	120	—	720	医療薬学科	<u>125</u>	—	<u>750</u>	定員変更(5)
看護学部				看護学部				
看護学科	80	—	320	看護学科	<u>90</u>	—	<u>360</u>	定員変更(10)
表象文化学部				表象文化学部				
英語英文学科	145	—	580	英語英文学科	<u>150</u>	—	<u>600</u>	定員変更(5)
日本語日本文学科	120	—	480	日本語日本文学科	120	—	480	
生活科学部				生活科学部				
人間生活学科	80	—	320	人間生活学科	<u>90</u>	—	<u>360</u>	定員変更(10)
食物栄養科学科				食物栄養科学科				
食物科学専攻	55	—	220	食物科学専攻	<u>60</u>	—	<u>240</u>	定員変更(5)
管理栄養士専攻	80	—	320	管理栄養士専攻	80	—	320	
計	1,395	0	5,820	計	<u>1,450</u>	0	<u>6,050</u>	

平成31年度	入学定員	編入学 定員	収容定員
同志社女子大学大学院			
文学研究科			
英語英文学専攻(M)	8	—	16
日本語日本文化専攻(M)	10	—	20
情報文化専攻(M)	5	—	10
英語英文学専攻(D)	4	—	12
日本語日本文化専攻(D)	4	—	12
国際社会システム研究科			
国際社会システム専攻(M)	10	—	20
生活科学研究科			
生活デザイン専攻(M)	5	—	10
食物栄養科学専攻(M)	8	—	16
看護学研究科			
看護学専攻(M)	6	—	12
薬学研究科			
医療薬学専攻(4年制D)	4	—	16
計	64	0	144

平成32年度	入学定員	編入学 定員	収容定員	変更の事由
同志社女子大学大学院				
文学研究科				
英語英文学専攻(M)	8	—	16	
日本語日本文化専攻(M)	10	—	20	
情報文化専攻(M)	5	—	10	
英語英文学専攻(D)	4	—	12	
日本語日本文化専攻(D)	4	—	12	
国際社会システム研究科				
国際社会システム専攻(M)	10	—	20	
生活科学研究科				
生活デザイン専攻(M)	5	—	10	
食物栄養科学専攻(M)	8	—	16	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	6	—	12	
<u>看護学専攻(D)</u>	<u>3</u>	—	<u>9</u>	課程変更(認可申請)
薬学研究科				
医療薬学専攻(4年制D)	4	—	16	
計	<u>67</u>	0	<u>153</u>	

学校法人同志社 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
同志社大学				同志社大学				
神学部				神学部				
神学科	63	—	252	神学科	63	—	252	
文学部				文学部				
英文学科	315	—	1,260	英文学科	315	—	1,260	
哲学科	70	—	280	哲学科	70	—	280	
美学芸術学科	70	—	280	美学芸術学科	70	—	280	
文化史学科	125	—	500	文化史学科	125	—	500	
国文学科	125	—	500	国文学科	125	—	500	
社会学部				社会学部				
社会学科	90	—	360	社会学科	90	—	360	
社会福祉学科	98	—	392	社会福祉学科	98	—	392	
メディア学科	88	—	352	メディア学科	88	—	352	
産業関係学科	87	—	348	産業関係学科	87	—	348	
教育文化学科	79	—	316	教育文化学科	79	—	316	
法学部				法学部				
法律学科	683	—	2,732	法律学科	683	—	2,732	
政治学科	210	—	840	政治学科	210	—	840	
経済学部				経済学部				
経済学科	893	—	3,572	経済学科	893	—	3,572	
商学部				商学部				
商学科	893	—	3,572	商学科	893	—	3,572	
政策学部				政策学部				
政策学科	420	—	1,680	政策学科	420	—	1,680	
文化情報学部				文化情報学部				
文化情報学科	294	—	1,176	文化情報学科	294	—	1,176	
理工学部				理工学部				
<small>3年次</small> インテリジェント情報工学科	83	2	336	<small>3年次</small> インテリジェント情報工学科	83	2	336	
<small>3年次</small> 情報システムデザイン学科	83	2	336	<small>3年次</small> 情報システムデザイン学科	83	2	336	
<small>3年次</small> 電気工学科	80	2	324	<small>3年次</small> 電気工学科	80	2	324	
<small>3年次</small> 電子工学科	86	2	348	<small>3年次</small> 電子工学科	86	2	348	
<small>3年次</small> 機械システム工学科	96	2	388	<small>3年次</small> 機械システム工学科	96	2	388	
<small>3年次</small> エネルギー機械工学科	70	2	284	<small>3年次</small> <u>機械理工学科</u>	70	2	284	名称変更
<small>3年次</small> 機能分子・生命化学科	83	2	336	<small>3年次</small> 機能分子・生命化学科	83	2	336	
<small>3年次</small> 化学システム創成工学科	83	2	336	<small>3年次</small> 化学システム創成工学科	83	2	336	
<small>3年次</small> 環境システム学科	51	2	208	<small>3年次</small> 環境システム学科	51	2	208	
<small>3年次</small> 数理システム学科	41	2	168	<small>3年次</small> 数理システム学科	41	2	168	
生命医科学部				生命医科学部				
医工学科	100	—	400	医工学科	100	—	400	
医情報学科	100	—	400	医情報学科	100	—	400	
医生命システム学科	65	—	260	医生命システム学科	65	—	260	
スポーツ健康科学部				スポーツ健康科学部				
スポーツ健康科学科	221	—	884	スポーツ健康科学科	221	—	884	
心理学部				心理学部				
心理学科	158	—	632	心理学科	158	—	632	
グローバル・コミュニケーション学部				グローバル・コミュニケーション学部				
グローバル・コミュニケーション学科	158	—	632	グローバル・コミュニケーション学科	158	—	632	
グローバル地域文化学部				グローバル地域文化学部				
グローバル地域文化学科	190	—	760	グローバル地域文化学科	190	—	760	
計	6,351	20	25,444	計	6,351	20	25,444	

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
同志社大学大学院					同志社大学大学院				
神学研究科				→	神学研究科				
神学専攻(M)	20	—	40		神学専攻(M)	20	—	40	
神学専攻(D)	5	—	15		神学専攻(D)	5	—	15	
文学研究科					文学研究科				
哲学専攻(M)	10	—	20		哲学専攻(M)	10	—	20	
英文学・英語学専攻(M)	20	—	40		英文学・英語学専攻(M)	20	—	40	
文化史学専攻(M)	15	—	30		文化史学専攻(M)	15	—	30	
国文学専攻(M)	10	—	20		国文学専攻(M)	10	—	20	
美学芸術学専攻(M)	5	—	10		美学芸術学専攻(M)	5	—	10	
哲学専攻(D)	5	—	15		哲学専攻(D)	5	—	15	
英文学・英語学専攻(D)	4	—	12		英文学・英語学専攻(D)	4	—	12	
文化史学専攻(D)	4	—	12		文化史学専攻(D)	4	—	12	
国文学専攻(D)	3	—	9		国文学専攻(D)	3	—	9	
美学芸術学専攻(D)	3	—	9		美学芸術学専攻(D)	3	—	9	
社会学研究科					社会学研究科				
社会福祉学専攻(M)	10	—	20		社会福祉学専攻(M)	10	—	20	
メディア学専攻(M)	5	—	10		メディア学専攻(M)	5	—	10	
教育文化学専攻(M)	7	—	14		教育文化学専攻(M)	7	—	14	
社会学専攻(M)	10	—	20		社会学専攻(M)	10	—	20	
産業関係学専攻(M)	5	—	10		産業関係学専攻(M)	5	—	10	
社会福祉学専攻(D)	6	—	18		社会福祉学専攻(D)	6	—	18	
メディア学専攻(D)	2	—	6		メディア学専攻(D)	2	—	6	
教育文化学専攻(D)	3	—	9		教育文化学専攻(D)	3	—	9	
社会学専攻(D)	5	—	15		社会学専攻(D)	5	—	15	
産業関係学専攻(D)	2	—	6		産業関係学専攻(D)	2	—	6	
法学研究科					法学研究科				
政治学専攻(M)	40	—	80		政治学専攻(M)	40	—	80	
私法学専攻(M)	45	—	90		私法学専攻(M)	45	—	90	
公法学専攻(M)	45	—	90		公法学専攻(M)	45	—	90	
政治学専攻(D)	5	—	15		政治学専攻(D)	5	—	15	
私法学専攻(D)	5	—	15		私法学専攻(D)	5	—	15	
公法学専攻(D)	5	—	15		公法学専攻(D)	5	—	15	
経済学研究科					経済学研究科				
理論経済学専攻(M)	25	—	50		理論経済学専攻(M)	25	—	50	
応用経済学専攻(M)	25	—	50		応用経済学専攻(M)	25	—	50	
経済政策専攻(D)	5	—	15		経済政策専攻(D)	5	—	15	
商学研究科					商学研究科				
商学専攻(M)	65	—	130		商学専攻(M)	65	—	130	
商学専攻(D)	5	—	15		商学専攻(D)	5	—	15	
総合政策科学研究科					総合政策科学研究科				
総合政策科学専攻(M)	70	—	140		総合政策科学専攻(M)	70	—	140	
総合政策科学専攻(D)	15	—	45		総合政策科学専攻(D)	15	—	45	
文化情報学研究科					文化情報学研究科				
文化情報学専攻(M)	30	—	60		文化情報学専攻(M)	30	—	60	
文化情報学専攻(D)	5	—	15		文化情報学専攻(D)	5	—	15	
理工学研究科					理工学研究科				
情報工学専攻(M)	60	—	120		情報工学専攻(M)	60	—	120	
電気電子工学専攻(M)	70	—	140		電気電子工学専攻(M)	70	—	140	
機械工学専攻(M)	80	—	160		機械工学専攻(M)	80	—	160	
応用化学専攻(M)	80	—	160		応用化学専攻(M)	80	—	160	
数理環境科学専攻(M)	25	—	50		数理環境科学専攻(M)	25	—	50	
情報工学専攻(D)	5	—	15		情報工学専攻(D)	5	—	15	
電気電子工学専攻(D)	7	—	21		電気電子工学専攻(D)	7	—	21	
機械工学専攻(D)	8	—	24		機械工学専攻(D)	8	—	24	
応用化学専攻(D)	7	—	21		応用化学専攻(D)	7	—	21	
数理環境科学専攻(D)	3	—	9		数理環境科学専攻(D)	3	—	9	

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
生命医科学研究科			
医工学・医情報学専攻(M)	90	—	180
医生命システム専攻(M)	20	—	40
医工学・医情報学専攻(D)	2	—	6
医生命システム専攻(D)	12	—	36
スポーツ健康科学研究科			
スポーツ健康科学専攻(M)	8	—	16
スポーツ健康科学専攻(D)	3	—	9
心理学研究科			
心理学専攻(M)	10	—	20
心理学専攻(D)	6	—	18
グローバル・スタディーズ研究科			
グローバル・スタディーズ専攻(M)	45	—	90
グローバル・スタディーズ専攻(D)	18	—	54
ビジネス研究科			
ビジネス専攻(専門職)	30	—	60
グローバル経営研究専攻(M)	45	—	90
司法研究科			
法務専攻(専門職)	70	—	210
脳科学研究科			
発達加齢脳専攻(5年制D)	10	—	50
計	1,263	—	2,784

平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
生命医科学研究科				
医工学・医情報学専攻(M)	90	—	180	
医生命システム専攻(M)	20	—	40	
医工学・医情報学専攻(D)	2	—	6	
医生命システム専攻(D)	12	—	36	
スポーツ健康科学研究科				
スポーツ健康科学専攻(M)	8	—	16	
スポーツ健康科学専攻(D)	3	—	9	
心理学研究科				
心理学専攻(M)	10	—	20	
心理学専攻(D)	6	—	18	
グローバル・スタディーズ研究科				
グローバル・スタディーズ専攻(M)	45	—	90	
グローバル・スタディーズ専攻(D)	18	—	54	
ビジネス研究科				
ビジネス専攻(専門職)	30	—	60	
グローバル経営研究専攻(M)	45	—	90	
司法研究科				
法務専攻(専門職)	70	—	210	
脳科学研究科				
発達加齢脳専攻(5年制D)	10	—	50	
計	1,263	—	2,784	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学研究科看護学専攻 博士課程（後期）)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護教育特講	1前	1			○			2					兼1	オムニバス
	看護研究特講	1前	1			○			1	1					オムニバス
	看護研究方法特講Ⅰ（質的研究）	1後		1		○			2	1					オムニバス
	看護研究方法特講Ⅱ（量的研究）	1後		1		○			2	1					オムニバス
	小計（4科目）	—	2	2		—			6	2	0	0	0	兼1	
専門科目	臨床看護学領域 成人看護学特講	1前		1		○			1	1					オムニバス
	臨床看護学領域 ウイメンズヘルスト講	1前		1		○			2	1					オムニバス
	広域看護学領域 高齢者・在宅看護学特講	1前		1		○			4						オムニバス
	広域看護学領域 公衆衛生看護学特講	1前		1		○			1	1				兼1	オムニバス
	小計（4科目）	—		4		—			8	3	0	0	0	兼1	
特別研究	看護学特別研究Ⅰ	1通	2				○		8	5					
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2				○		8	5					
	看護学特別研究Ⅲ	3通	2				○		8	5					
	小計（3科目）	—	6			—			8	5	0	0	0	0	
合計（11科目）		—	8	6	0	—			8	6	0	0	0	兼2	
学位又は称号		博士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【修了要件】 本課程に3年以上在籍し、共通科目から3単位以上（必修2単位、選択必修1単位以上）、専門科目から2単位以上、特別研究から6単位（必修）、合計11単位以上を修得すると共に、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験（口頭試験）に合格すること。 【履修方法】 「共通科目」：必修科目2科目と選択科目から1科目以上を選択し履修する。 「専門科目」： ① 専攻する看護学の特講科目を必ず履修する。 ② ①以外の看護学の特講科目から1科目以上を選択し履修する。 ※②は、「臨床看護学領域」、「広域看護学領域」の区分に関わらず選択可能とする。 「特別研究」：必修科目3科目をすべて履修する。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護教育特講	<p>日本の近・現代における看護教育の変遷、近年の看護の高等教育化の進展、看護教育の国際的な動向などを教授する。それらをふまえて、学部教育である看護基礎教育や大学院教育の卒後教育、看護職者への教育である看護継続教育の現状と今日的課題を検討する。そして、これからの看護教育のあり方を展望し、自身の教育的役割遂行のための課題などについて議論し、探究する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全8回) (6 岡山寧子 / 4回)</p> <p>日本の近・現代の看護教育の変遷、近年の看護の高等教育化の進展から、現在の看護教育の現状と課題を検討し、看護基礎教育や卒後教育の現状と今日的課題を探る。そして、これからの看護教育のあり方を展望し、自身の教育的役割遂行のための課題などについて議論し、探究する。</p> <p>(7 谷口初美 / 2回)</p> <p>看護教育における国内・外の動向、中でも助産師教育を例として、その現状と課題を検討し、看護基礎教育や卒後教育の現状と今日的課題を探る。そして、国際的な視野からみた、これからの看護教育のあり方を議論し、探究する。</p> <p>(15 中川典子 / 2回)</p> <p>看護管理と人材育成の観点から看護継続教育の現状と課題を検討し、これからの看護継続教育を展望し、自身の教育的役割遂行のための課題について議論し、探究する。</p>	オムニバス方式
	看護研究特講	<p>看護における理論構築のためには、用いる概念を明確にする必要がある。概念を定義するために、概念の本質を探究する概念分析の方法論を理解する。また、看護研究において、研究対象者の人権の保護、安全の保持及び福祉の向上を図りつつ、科学的な質及び結果の信頼性並びに倫理的妥当性を確保することが求められるため、看護研究における倫理的配慮の重要性および倫理的課題のとらえ方について具体例を交えて講義する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全8回) (8 當日雅代 / 5回)</p> <p>主要な概念分析の方法論を学習する。各方法論を用いて関心領域における主要概念の概念分析を実施する。</p> <p>(14 杉原百合子 / 3回)</p> <p>科学的根拠に基づいた看護の実践および教育の根拠となりうる研究成果を導くプロセスにおいて、必要となる研究倫理への理解を深め、研究プロセスに内包する倫理的課題と対応について検討・考察する。具体的には、認知症の人と家族への意思決定支援における倫理的課題と解決について、意思決定プロセスの方法論をもとに分析・考察を深める。</p>	オムニバス方式
	看護研究方法特講Ⅰ (質的研究)	<p>様々な看護現象を探究する研究方法を理解するとともに、課題解決に向けて必要な一連の研究方法を修得する。ここでは、質的研究の基盤となる理論、方法について理解を深める。特に看護学での記述的現象学法およびロングインタビュー法について研究課題と方法論を議論し探究する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全8回) (14 杉原百合子 / 2回)</p> <p>研究課題に応じた質的研究方法と理論的枠組みについて議論するとともに、質的研究のプロセスを明瞭化し厳密性を保つ基準や評価方法を探究する。</p> <p>(7 谷口初美 / 3回)</p> <p>記述的現象学法を用いた研究プロセスの実際を教授し、デザイン、データ収集、分析方法の概要を教授する。</p> <p>(3 小松光代 / 3回)</p> <p>ロングインタビュー法を用いた研究プロセスの実際を教授し、デザイン、データ収集、分析方法の概要を教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	看護研究方法特講Ⅱ (量的研究)	<p>様々な看護現象を探究する研究方法を理解するとともに、課題解決に向けて必要な一連の研究方法を修得する。ここでは、量的研究の役割、種類、方法および実践への活用と尺度開発の方法および実践への活用についての理解を深め、研究課題と方法論について議論し、探究する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全8回) (12 三橋美和 / 3回)</p> <p>量的研究の役割やデザイン・プロセスと実践への活用について、論文クリティークを通して検討・探究する。</p> <p>(1 長谷川昇 / 3回)</p> <p>準実験的研究法・実験的研究法のデザイン・プロセスと実践への活用について、論文クリティークを通して検討・探究する。さらに、生体を構成する細胞および代謝に不可欠なビタミンやホルモンの定量的測定方法について理解する。また、色の濃さを数値化し、定量的に扱う方法についても理解する。</p> <p>(4 眞鍋えみ子 / 2回)</p> <p>尺度開発のプロセスならびに測定用具の信頼性・妥当性の検証について、論文クリティークを通して検討・探究する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士課程 (後期))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	臨床看護学領域	<p>成人看護学領域における対象者の健康問題に関する課題を多角的にとらえ、研究の主要な概念の分析および理論の評価方法を学習し、課題解決に向けての研究手法論を修得する。量的および質的研究文献に対するサブストラクションを用い国内外の文献を検討し、研究手法の吟味とともに、研究の独創的位置づけを明らかにする。</p> <p>(オムニバス方式 /全8回) (8 當日雅代/5回)</p> <p>手術療法ならびにリハビリテーション領域の看護ケアのエビデンスを構築するためにプログラム評価研究について検討する。看護ケア介入のための研究デザインの開発と選択および倫理的配慮、アウトカム測定のための測定ツールの作成方法について探究する。</p> <p>(13 光木幸子/3回)</p> <p>慢性疾患ならびにがん看護領域の看護ケアの取り組むべき研究課題を特定し、看護ケアの評価方法や看護介入プログラムの開発、看護のエビデンスにつながる介入研究について探究する。</p>	オムニバス方式
		<p>少子超高齢化社会における女性と子ども、その家族を対象とした健康問題や健康課題を幅広く理論的に探究し、それらの課題への創造的なアプローチについて考察する。また国内外の文献をグローバルな視点から検討し、各自の研究課題を明確にするとともに、課題解決のための理論や研究方法について検討する。</p> <p>(オムニバス方式 /全8回) (7 谷口初美/3回)</p> <p>女性とその家族の健康、成長発達に関する諸理論を概観し、関心のある現象や研究テーマに関する概念/理論の背景、先行要件、定義、結果について分析する。また、女性とその家族を中心とした其々のライフステージにおけるイベントに関して、Transition (移行) の看護概念を用いてヘルスプロモーションへの課題解決の方策を探究する。</p> <p>(4 眞鍋えみ子/2回)</p> <p>周産期における女性とその家族の健康の維持増進や健康問題に関する課題に対応していくために、生じている現象を説明できる概念や理論を探り、女性の健康問題や健康課題を国内外の文献から多角的に捉え、セルフケア行動の促進やストレスコーピングの視点から女性の健康生活支援の方策を探究する。</p> <p>(10 和泉美枝/3回)</p> <p>マタニティサイクルにある女性の健康と健康問題について、リプロダクティブヘルスに関する理論と援助論を国内外の文献から探索し、身体的・心理的・社会的な生理的変化に対する適応過程の視点から、女性のヘルスプロモーションへの課題解決の方策を探究する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士課程 (後期))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	広 域 看 護 学 領 域	<p>少子超高齢化の中で、地域や施設などで暮らす、様々な健康レベルにある高齢者への健康支援、疾病予防、介護予防、および健康課題解決のための支援などを、理論的に幅広く探究する。また、国内外の文献を学際的な視点から捉え、各自の研究課題を明確にするとともに、課題解決のための研究方法について検討する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全8回) (6 岡山寧子 / 2回) 地域や施設などで暮らす高齢者の健康長寿をめざして、高齢者への健康支援、介護予防、健康課題解決支援の実際や支援方法などを、国内外の研究成果から検討し、それらの課題と支援の方策を探究する。</p> <p>(3 小松光代 / 2回) 地域包括ケアシステムの構築をめざして、認知症や要介護状態にある高齢者が最期まで住み慣れた家で過ごすことを実現する支援の方策を探究する。</p> <p>(2 木村みさか / 2回) 地域高齢者の健康寿命延伸のために、地域で展開できる運動、栄養、口腔ケアなどのプログラムの実際と支援方法について、国内外の研究成果から検討し、課題と方法論を探索する。</p> <p>(1 長谷川昇 / 2回) 地域や施設などで暮らす高齢者が要介護状態にならないよう、筋力や認知機能の低下、低栄養状態や口腔機能の改善、服薬のコントロールなどについて、国内外の研究成果から検討し、介護予防を推進するための適切な介入・支援の方策を探究する。</p>	オムニバス方式
		<p>地域で暮らすあらゆる健康レベルの人々への健康支援、疾病予防および健康課題解決のための方策を理論的に幅広く探究する。また国内外の文献をグローバルな視点から検討し、各自の研究課題を明確にするとともに、課題解決のための理論や研究方法について検討する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全8回) (5 榎本妙子 / 3回) 地域の健康課題とその関連要因を分析することで、個人・家族・集団・地域の健康レベルの向上を目指す看護について探究する。</p> <p>(12 三橋美和 / 3回) ライフステージ及び健康課題の視点から、個人・家族・集団・地域の健康レベルの向上をめざす看護について探究する。</p> <p>(① 柳澤理子 / 2回) グローバルヘルスの視点から、個人・家族・コミュニティの健康レベルの向上をめざす看護について探究する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	看護学特別研究 I	<p>学生個々の専門領域における、これまでの自己の研究を踏まえて、研究テーマに応じて研究方法を選択した後、学術性の高い研究計画を立案、研究計画書に基づいて研究活動を展開するために、学生の興味・関心に従い研究課題に関連した文献の検索や文献の批判的検討を通して、研究疑問と研究目的を明確化し、研究計画の立案、研究倫理審査を受けるまでの過程を主体的に取り組めるように指導・支援する。この過程において、当該領域での研究の意義や重要性、実施可能性の高い研究課題を明確にし、課題解決のための企画・立案能力を育成する。</p> <p>(1 長谷川昇) 高齢者のQOLの向上に寄与できる課題を見出し、エビデンスに基づいた適切な看護援助方法へとつなげる。具体的には、認知機能、運動機能、身体組成、血液・尿成分など、パラメーターとなる因子を量的に把握するための方法論を考察し、介入後のエビデンスの構築ができるように研究指導を行う。</p> <p>(2 木村みさか) 健康寿命の延伸、フレイル予防、介護予防などをキーワードに、様々な健康状態にある地域高齢者を対象に(運動や栄養などの生活習慣との関連やその支援方法などの)研究課題を設定し、自律的な研究活動によってエビデンスレベルの高い論文作成に繋がる指導を行う。</p> <p>(3 小松光代) 在宅療養する人と家族、要介護状態または認知症の人が住み慣れた地域で最期まで暮らし続けることが可能となるための保健指導や看護援助等に関する研究課題について研究指導を行う。</p> <p>(4 眞鍋えみ子) 女性の健康と健康生活を支援するための課題と方策に取り組む。特にリプロダクティブヘルスに重要な妊産褥婦および育児期の女性やその家族に対するセルフケア行動促進のケア、健康教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 榎本妙子) 個人、家族、集団、地域への健康支援をテーマとした研究課題に取り組み、公衆衛生看護学の発展に寄与できる自律的な研究活動と論文作成ができるよう指導を行う。</p> <p>(6 岡山寧子) 地域や施設などで生活する高齢者の健康長寿をめざして、高齢者の健康支援、介護予防、健康課題解決支援などに関する研究課題を選択し、自律的な研究活動と論文作成ができるよう指導を行う。</p> <p>(7 谷口初美) 女性とその家族を中心とした其々のライフステージにおけるイベントに関して、Transition(移行)の看護概念を用い、その人生の意味を探求し、その人のヘルスプロモーションへの課題に取り組む。助産学、看護学のためのシミュレーション教育に関する研究、地域国際母子保健に関する研究に関しても研究指導を行う。</p> <p>(8 當目雅代) 成人周手術期・リハビリテーション期にある患者と家族を対象に、健康上の問題に関連した概念や理論を明確にし、問題解決に向けた方法論を選択し、成人看護学のエビデンス構築に貢献できる看護介入研究の指導を行う。</p> <p>(9 橋本秀実) 在日外国人への健康支援や学校における児童生徒の健康支援、開発途上国における健康支援など、公衆衛生看護活動に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 木村洋子) 精神障害を持つ対象およびその家族への支援に関する課題を選択し、自律的な研究活動と論文作成についての研究指導を行う。</p> <p>(12 三橋美和) 地域における健康およびQOLの向上をめざした看護に関する研究課題をテーマとして、看護専門職として必要な自律的な研究活動と論文作成に必要な能力を修得できるよう研究指導を行う。</p> <p>(13 光木幸子) 成人慢性期・終末期にある患者とその家族を対象に、健康上の問題に関連した概念や理論を明確にし、問題解決に向けた方法論を選択し、成人看護学のエビデンス構築に貢献できる看護介入研究の指導を行う。</p> <p>(14 杉原百合子) 超高齢社会における多様で複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族のQOL向上を目指した支援に関する研究課題を選択し、自律的な研究活動ができるような指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士課程 (後期))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究	看護学特別研究Ⅱ	<p>看護学特別研究Ⅰでの学びを発展させ、立案した研究計画に基づいて研究活動を展開する。研究活動によって得られたデータを分析し、研究成果の中間発表を行い、学術性を備えた研究論文としてまとめ、学術雑誌に投稿するまでの過程を主体的に取り組めるように指導・支援する。この過程において、自律的な研究活動に必要な能力や研究成果を産出する意義を理解し、必要な研究実践能力を育成する。</p> <p>(1 長谷川昇) 高齢者のQOLの向上に寄与できる課題を見出し、エビデンスに基づいた適切な看護援助方法へとつなげる。具体的には、認知機能、運動機能、身体組成、血液・尿成分など、パラメーターとなる因子を量的に把握するための方法論を考察し、介入後のエビデンスの構築ができるように研究指導を行う。</p> <p>(2 木村みさか) 健康寿命の延伸、フレイル予防、介護予防などをキーワードに、様々な健康状態にある地域高齢者を対象に（運動や栄養などの生活習慣との関連やその支援方法などの）研究課題を設定し、自律的な研究活動によってエビデンスレベルの高い論文作成に繋がる指導を行う。</p> <p>(3 小松光代) 在宅療養する人と家族、要介護状態または認知症の人が住み慣れた地域で最期まで暮らし続けることが可能となるための保健指導や看護援助等に関する研究課題について研究指導を行う。</p> <p>(4 眞鍋えみ子) 女性の健康と健康生活を支援するための課題と方策に取り組む。特にリプロダクティブヘルスに重要な妊産褥婦および育児期の女性やその家族に対するセルフケア行動促進のケア、健康教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 榎本妙子) 個人、家族、集団、地域への健康支援をテーマとした研究課題に取り組み、公衆衛生看護学の発展に寄与できる自律的な研究活動と論文作成ができるよう指導を行う。</p> <p>(6 岡山寧子) 地域や施設などで生活する高齢者の健康長寿をめざして、高齢者の健康支援、介護予防、健康課題解決支援などに関する研究課題を選択し、自律的な研究活動と論文作成ができるよう指導を行う。</p> <p>(7 谷口初美) 女性とその家族を中心とした其々のライフステージにおけるイベントに関して、Transition（移行）の看護概念を用い、その人生の意味を探究し、その人のヘルスプロモーションへの課題に取り組む。助産学、看護学のためのシミュレーション教育に関する研究、地域国際母子保健に関する研究に関しても研究指導を行う。</p> <p>(8 當目雅代) 成人周手術期・リハビリテーション期にある患者と家族を対象に、健康上の問題に関連した概念や理論を明確にし、問題解決に向けた方法論を選択し、成人看護学のエビデンス構築に貢献できる看護介入研究の指導を行う。</p> <p>(9 橋本秀実) 在日外国人への健康支援や学校における児童生徒の健康支援、開発途上国における健康支援など、公衆衛生看護活動に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 木村洋子) 精神障害を持つ対象およびその家族への支援に関する課題を選択し、自律的な研究活動と論文作成についての研究指導を行う。</p> <p>(12 三橋美和) 地域における健康およびQOLの向上をめざした看護に関する研究課題をテーマとして、看護専門職として必要な自律的な研究活動と論文作成に必要な能力を修得できるよう研究指導を行う。</p> <p>(13 光木幸子) 成人慢性期・終末期にある患者とその家族を対象に、健康上の問題に関連した概念や理論を明確にし、問題解決に向けた方法論を選択し、成人看護学のエビデンス構築に貢献できる看護介入研究の指導を行う。</p> <p>(14 杉原百合子) 超高齢社会における多様で複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族のQOL向上を目指した支援に関する研究課題を選択し、自律的な研究活動ができるような指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究	看護学特別研究Ⅲ	<p>看護学特別研究Ⅱでの学生の学びを発展させ、立案した研究計画書に基づいた研究活動により得られたデータを分析し、独創性と学術性を備えた研究論文としてまとめ、学術雑誌への投稿論文の推敲や博士論文審査ならびに発表を経て博士課程(後期)の学位論文を完成させる。この過程において、自律的に研究活動を行い、看護学の発展をめざす研究者として必要な研究能力や姿勢を育成する。</p> <p>(1 長谷川昇) 高齢者のQOLの向上に寄与できる課題を見出し、エビデンスに基づいた適切な看護援助方法へとつなげる。具体的には、認知機能、運動機能、身体組成、血液・尿成分など、パラメーターとなる因子を量的に把握するための方法論を考察し、介入後のエビデンスの構築ができるように研究指導を行う。</p> <p>(2 木村みさか) 健康寿命の延伸、フレイル予防、介護予防などをキーワードに、様々な健康状態にある地域高齢者を対象に(運動や栄養などの生活習慣との関連やその支援方法などの)研究課題を設定し、自律的な研究活動によってエビデンスレベルの高い論文作成に繋がる指導を行う。</p> <p>(3 小松光代) 在宅療養する人と家族、要介護状態または認知症の人が住み慣れた地域で最期まで暮らし続けることが可能となるための保健指導や看護援助等に関する研究課題について研究指導を行う。</p> <p>(4 眞鍋えみ子) 女性の健康と健康生活を支援するための課題と方策に取り組む。特にリプロダクティブヘルスに重要な妊産褥婦および育児期の女性やその家族に対するセルフケア行動促進のケア、健康教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 榎本妙子) 個人、家族、集団、地域への健康支援をテーマとした研究課題に取り組み、公衆衛生看護学の発展に寄与できる自律的な研究活動と論文作成ができるよう指導を行う。</p> <p>(6 岡山寧子) 地域や施設などで生活する高齢者の健康長寿をめざして、高齢者の健康支援、介護予防、健康課題解決支援などに関する研究課題を選択し、自律的な研究活動と論文作成ができるよう指導を行う。</p> <p>(7 谷口初美) 女性とその家族を中心とした其々のライフステージにおけるイベントに関して、Transition(移行)の看護概念を用い、その人生の意味を探求し、その人のヘルスプロモーションへの課題に取り組む。助産学、看護学のためのシミュレーション教育に関する研究、地域国際母子保健に関する研究に関しても研究指導を行う。</p> <p>(8 當目雅代) 成人周手術期・リハビリテーション期にある患者と家族を対象に、健康上の問題に関連した概念や理論を明確にし、問題解決に向けた方法論を選択し、成人看護学のエビデンス構築に貢献できる看護介入研究の指導を行う。</p> <p>(9 橋本秀実) 在日外国人への健康支援や学校における児童生徒の健康支援、開発途上国における健康支援など、公衆衛生看護活動に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 木村洋子) 精神障害を持つ対象およびその家族への支援に関する課題を選択し、自律的な研究活動と論文作成についての研究指導を行う。</p> <p>(12 三橋美和) 地域における健康およびQOLの向上をめざした看護に関する研究課題をテーマとして、看護専門職として必要な自律的な研究活動と論文作成に必要な能力を修得できるよう研究指導を行う。</p> <p>(13 光木幸子) 成人慢性期・終末期にある患者とその家族を対象に、健康上の問題に関連した概念や理論を明確にし、問題解決に向けた方法論を選択し、成人看護学のエビデンス構築に貢献できる看護介入研究の指導を行う。</p> <p>(14 杉原百合子) 超高齢社会における多様で複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族のQOL向上を目指した支援に関する研究課題を選択し、自律的な研究活動ができるような指導を行う。</p>	